

横須賀歴史散策マップ

西地域を歩く

- 谷戸の庚申塔群
- 子産石
- 一猿の庚申塔
- 久留和海岸
- 浄楽寺
- 長坂やぐら群
- 鍋島三太夫
- 妙印寺
- 古道入口
- 本住寺
- 大田和城址
- 百庚申塔
- 獅子畑やぐら群
- 身洗川
- 黒石と塔の石
- 寺坂
- 前田夕暮歌碑
- のりびき
- 荒井観音への道標
- 伝 北条経時の墓
- へっぶり坂
- 陣屋みち
- おこり石
- 三郎崎
- 荒井観音堂 芭蕉の句碑
- どんどんびき
- 長井町荒井の道切り
- 観音像の庚申塔
- 大善寺
- 衣笠城跡
- 磨崖仏
- 満昌寺
- 清雲寺
- 清願寺
- 中島三郎助墓による句碑
- 佐原城址
- へっぶり坂
- 経塚
- 念仏行者 順海の墓
- 嵐山不動院
- 三浦吉士とたきあげ
- みかん園
- 津久井次郎の墓
- 万代会館
- 長岡半太郎記念館
- 若山牧水資料館
- 若山牧水歌碑
- 若山牧水浮城歌碑
- かろうと山古墳



1 子安の里周辺

庚申信仰は、中国の道教が日本に伝来し、仏教や神道と混ざり合って独特の信仰となったものです。庚申塔の本体は青面金剛像が一般的ですが、帝釈天・猿田彦命（さるたひこのみこと）・道祖神（どうそじん）などさまざまで、その数は市内で千体を超えるともいわれています。 **バス停「久留和海岸」から徒歩6分**

2 子産石（ごみいし）

久留和海岸の周辺で見られる大小の丸石は「子産石」といわれ、昔から生殖の神、安産の神が宿る石として崇拝されてきました。子産石をなでた手でお腹をさすると懐妊するなどの伝承が残っています。バス停前にある約1mの子産石は、全体の象徴として市民文化資産に指定されています。 **バス停「子産石」前**

3 御幣（ごへい）を担いだ一猿の庚申塔

この庚申塔の1つは駒型の石に御幣を持った雄猿を刻んだ珍しいもので、猿まわしの猿をモチーフにしているようにも思われます。享保6年（1721）に建立されました。 **バス停「久留和」から徒歩30分**

4 子安の里（子安の炭焼）

子安の里は周囲を山に囲まれた小さな集落で、軽部氏が開いたともいわれています。かつては炭焼がさかんで、農閑期の里の暮らを支え、里の象徴的な風物として横須賀風物百選にも選ばれました。現在も一部で炭焼が行われています。 **バス停「久留和」から徒歩30分**

5 久留和（くわ）海岸

横須賀の西海岸は、東京湾側に比べて自然の海岸が多く残っています。相模湾が一望できる久留和海岸は、横須賀風物百選に選ばれています。 **バス停「久留和海岸」から徒歩2分**



3 長坂周辺

このあたりに鎌倉時代の終わりから南北朝時代ごろ造られたと思われる「やぐら」とよばれる墓所がありました。当時の領主であった大友一族のものと思われる。 **バス停「佐島入口」から徒歩3分**

11 鍋島三太夫（長井出身江戸相撲親方）供養塔

鍋島三太夫は長井の出身で、江戸相撲の部屋持ち親方なまでに出世し、三浦相撲の隆盛に尽くしました。供養塔は近くの祖母神社にありましたが、後に無量寺へ移され、長坂氏子会によって御影石製の樓柱も添えられました。 **バス停「佐島入口」から徒歩5分 無量寺内**

12 妙印寺（木造 日蓮上人坐像）

弘化3年（1846）、このあたりの塩田開発工事に對し、長坂村の農民が反対したといわれる塩田騒動の際、農民がこの寺で強訴の話し合いをしたとされています。本尊は木造 日蓮上人坐像（市指定重要有形文化財）で、永禄8年（1565）の作とされています。 **バス停「佐島入口」から徒歩15分 ※外観のみ見学可。**

13 古道入口（阿部倉・平作・大楠山方面）

この山道は阿部倉、平作へ通じる古道で、三浦一族の根拠地であった衣笠城へと通じるかくれ道でもありました。車がかよえないため現在では利用者も少なく、古道らしい風情をとどめています。 **バス停「佐島入口」から徒歩35分**



17 扇子畑（せんすはたけ）やぐら群

「やぐら」とは、鎌倉時代から室町時代にかけて、岩穴を掘ってつくられた墓所のことです。発掘調査で刀さずを残した人骨などが出土したことから、戦死した武士の墓ではないかとみられています。 **バス停「林四ツ角」から徒歩8分**

18 身洗川（みらいがわ）

三浦氏と北条氏の戦いで、黒石付近での合戦に傷ついた武士が身を洗ったことから「身洗川」の名がつけられたと伝えられています。堀としての役割も果たしていたのかも知れません。 **バス停「林四ツ角」から徒歩6分**

19 黒石と塔の石

このあたりで永正12年（1515）、三浦道寸と小田原の北条早雲との間で激戦が行われたと伝えられています。付近の個人宅の敷地には地名の由来と思われる「黒石」と呼ばれる石があります。また道の向かい側には「塔の石」と呼ばれる高さ3mほどの岩があり、六地藏が祭られています。 **バス停「清水」から徒歩8分**



24 伝 北条経時の墓

不断寺の開基は鎌倉幕府の四代執権北条経時といわれており、この寺の裏に経時の墓といわれている宝篋印塔（ほうきょういんとう）が静かに建っています。塔は江戸時代後期の文化4年（1807）建立の銘があり、供養塔であるともいわれています。 **バス停「不断寺」から徒歩3分**

25 へっぶり坂

横須賀の西地域は丘陵が多く、坂道が多い地域です。なかでも急な坂道や、お寺に通じる坂道などには、その特徴をあらわす名前がつけられていました。この山道の坂は「へっぶり坂」というユニークな名前です。「へっぶり」の意味でしょうか。 **バス停「長井小学校」から徒歩15分**

26 陣屋みち

江戸末期、幕府の命を受けて荒崎台場が整備され、少し離れた漆山に「いくほ陣屋」と呼ばれる陣屋が設けられたといわれています。この陣屋へ通じたとされる山道は「陣屋みち」と呼ばれており、この呼び名だけが名残を伝えていきます。 **バス停「長井小学校」から徒歩15分**

27 おこり石

長徳寺墓地の裏から坂を下って漆山へ出るかつてのあざ道の傍らに「おこり石」と呼ばれる自然石があります。昔、風の強い日にはうなり声をあげて怒ったのでこの名がつけられたといわれています。 **バス停「長井小学校」から徒歩15分**



33 大善寺（木造 阿彌陀三尊像）

大善寺は奈良時代の僧行基が創建したとされ、三浦氏の学問、信仰の中心的存在でして、境内に祭られている不動明王像は、三浦為繼（ためつぐ）が後三年の役に陣出したとき、戦場に現れて敵の射る矢を打ち払ったとされ「矢取（やとり）不動」ともいわれています。また本尊の木造 阿彌陀三尊像は市指定重要有形文化財です。 **バス停「衣笠城跡」から徒歩20分**

34 衣笠城跡

衣笠城は三浦氏の祖とされる村岡為通（ためみち）が康平6年（1063）ごろ築いたとされています。のち治承4年（1180）、源頼朝に従い平家打倒に立ち上がった三浦義明とその一族郎党が、平家方の軍勢を迎えて合戦を行った「衣笠合戦」の舞台となりました。現在は市指定史跡となっています。 **バス停「衣笠城跡」から徒歩20分**

35 磨崖仏（まがいぶつ）

ゴルフ練習場に続く道沿いの山腹には、凝灰岩（ぎょうがいがん）に仏像などが彫刻された磨崖仏があります。鎌倉時代の仏教文化を物語る珍しい史跡として、市指定史跡となっています。 **バス停「満昌寺」から徒歩4分**

36 満昌寺（木造 三浦義明坐像ほか）

満昌寺は、源頼朝が三浦義明の忠魂を弔うため、建久5年（1194）に建立したと伝えられており、木造 三浦義明坐像（国指定重要有形文化財）や、伝三浦義明廟所（市指定史跡）などがあります。 **バス停「満昌寺」から徒歩2分**

横須賀の歴史を歩いて探そう

横須賀市内には、名所・旧跡のほか、地域特有の土地の呼び名や伝承などの「かたすみの歴史」が多く存在します。こうした歴史を実際に歩いて探してみませんか。このマップは、平成17年度まで地域文化の掘り起こしと研究を行っていた地域文化振興懇話会が設置した標柱、案内板をはじめとする研究結果の一部を紹介し、あわせて文化財、市民文化資産などの見所を掲載しています。

文化財

文化財保護法に基づき、国、県、市などが地域の文化的遺産を指定しています。有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物などさまざまなものがあります。

市民文化資産

文化財には指定されていませんが、市民生活に密着し広く愛され親しまれて、将来も大切に保存する必要のあるものを本市が指定しています。

地域の旧跡

旧跡や地域特有の土地の呼び名、伝承などの「かたすみの歴史」を、標柱などにより紹介しています。

文学碑

横須賀に関りの深い文学作品を選び、作品にゆかりの深い地に記念碑を建立して紹介しています。

横須賀風物百選

市制施行70周年を記念して、横須賀を象徴する風景や建物、行事などを選んで「横須賀風物百選」として位置付け、紹介しています。



2 芦名周辺

江戸時代、横須賀の西海岸周辺を通過していた鎌倉道は、現在の国道134号線とほぼ並行していたようです。古道には難所といえる急坂が設けられ、敵からの防御の役割を果たしていたといわれています。向坂（むこうざか）といわれる坂道もその一つだったのでしょうか。 **バス停「前田橋」から徒歩3分**

7 岩船（いわふね）地蔵

あるとき近在の漁師が漁に出て突然しけに遭い、船が暗礁に乗り上げました。漁師たちが必死に「南無地蔵菩薩」と唱えていると、地蔵菩薩が現れて船を導いたことからこの岩船（いわふね）地蔵を建立したといわれています。現在も航海安全と大漁を祈願して石で作った岩船を奉納する習わしが残っています。 **バス停「前田橋」から徒歩5分**

8 芦名城址庚申塔

市内でも珍しい宝篋印塔（ほうきょういんとう）の形をしています。かつては藩名氏の城館（芦名城の砦とみなされる）があったとされる大楠小学校前の小高い丘の上にはありましたが、後に芦名川沿いの現在の場所に移されました。 **バス停「芦名」から徒歩3分**

9 浄楽寺（木造 阿彌陀如来及両脇侍像 ほか）

浄楽寺はかつて三浦一族の和田義盛が建立した阿彌陀堂の一つであったといわれています。本尊である木造 阿彌陀如来及両脇侍像や木造 不動明王立像・毘沙門天立像はいずれも重慶（うんけい）作で国指定重要有形文化財です。 **バス停「浄楽寺」から徒歩1分**



14 本住寺（木造 日蓮上人坐像）

本住寺の木造 日蓮上人坐像（市指定重要有形文化財）は、永禄12年（1569）室町時代後期の代表的な鎌倉仏師のひとりである長動（ちやうごん）によりつくられたとされています。 **バス停「林」から徒歩10分**

15 大田和城址（ヤジロー山）

大田和城址は、三浦大介義明の三男、大田和部義久の居城跡と伝えられています。ヤジロー山ともいわれ、ここに流れる小川はかつての堀とみられています。 **バス停「太田和」から徒歩13分**

16 百庚申塔

百庚申塔とは、たくさんの庚申塔にお参りして得られるご利益を1カ所の庚申塔に期待するということから生まれたものとも思われます。専養院にある百庚申塔は、太田和の豪農で名主をつとめた浅葉家が、明治の初めに建立したといわれています。 **バス停「太田和」から徒歩20分 専養院内**

20 寺坂

「寺坂」という名前は他の地域でも見られる名前です。付近の寺院へ参道であったり、道の周辺が寺院の地所であったことからこのように名前のついたと思われる。 **バス停「宮の里」から徒歩8分**

21 前田夕暮歌碑

近代短歌の開拓者であり、優れた詩的散文の創始者でもある歌人前田夕暮が、北原白秋と城ヶ島へ遊んだ帰路、ともに長井の「藤屋」に宿泊して長井の風景を詠んだ歌を刻んだ碑が、富浦公園内に建立されています。 **バス停「富浦」から徒歩2分 富浦公園内**

22 のりびき

のりびきとは、のりの胞子などを付着させるため、遠浅の海中に立てる杭のことで、養殖場にぎっしりと立てられたのりびきの壮観な風景は、横須賀風物百選にも選ばれています。 **バス停「富浦」から徒歩2分**

23 荒井観音への道標

井尻の川崎橋近くのY字路に荒井観音堂（長慶院）へ行くための道標が建っています。表面には「南無大観音菩薩 右 長井村江道 左 あるいは観音をんみち」とあります。江戸時代の観音参りの隆盛を知ることができる、正徳元年（1711）建立の古い道標です。 **バス停「井尻」から徒歩5分**



28 三郎崎

荒井漁港の北側に突き出た崎は、由来はさだかではありませんが、「三郎崎」と呼ばれています。熊野の神が漂着したところとも伝えられています。 **バス停「荒崎」から徒歩1分**

29 荒井観音堂 芭蕉の句碑

荒井観音堂は長慶院（長慶寺）ともいい、建久3年（1192）源義経の旧臣鈴木重家の子家長が開いたといわれています。寺の境内には、江戸時代の名主である鈴木丈吉（号呉雪）が、松尾芭蕉の百年祭を記念して門人とともに建立したとされる句碑が建っています。 **バス停「荒崎」から徒歩1分**

30 どんどんびき

「どんどんびき」とは海蝕による細長い入り江の呼び名で、波が打ちつける音と、汐がどんどん引けて行くのが見えることからこの呼び名がつけられたといわれています。荒崎公園内に碑が建っています。 **バス停「荒崎」から徒歩7分 荒崎公園内**

31 長井町荒井の道切り

毎年5月15日の住吉神社の祭礼前に、しめ縄を3カ所の里塚に張り、わらで作った刀、蛇、わらじなどをつるします。日本各地で見られた「道切り」は疫病などが村に入るのを防ぐためのまじないで、地域の歴史を語る習俗として平成20年に市指定民俗文化財（無形）となりました。 **バス停「荒崎」から徒歩3分**

32 観音像の庚申塔

バス停「荒崎」から東にむかう坂を上ると、分かれ道に観音像の庚申塔があり、荒井観音堂（長慶院）への道標となっていました。この分かれ道の右方向の先には、最後の海軍大将となった上成美（しげよし）が住んでいました。 **バス停「荒崎」から徒歩5分**



37 清雲寺（木造 観音菩薩坐像ほか）

三浦為繼が開基とされる清雲寺（よしづく）の墓とされる五輪塔（市指定史跡）のほか、三浦一族の墓とされる石塔群が祭られています。境内には通称滝見観音ともいわれる木造 観音菩薩坐像（国指定重要有形文化財）があります。 **バス停「満昌寺」から徒歩5分**

38 満願寺（木造 菩薩立像ほか）

満願寺は三浦義明の末子佐原十郎義連（よしかづら）が開基といわれ、佐原義連の墓とされる五輪塔（市指定史跡）がたたずんでいます。境内には佐原義連がつくらせたとされる木造 菩薩立像、木造 地蔵菩薩立像（いずれも国指定重要有形文化財）などがあります。 **バス停「岩戸」から徒歩5分 満願寺内**

39 中島三郎助筆による句碑

満願寺境内に、幕末の浦賢任行力と、明治維新の際、新政府に最後まで抵抗し、戦死を遂げた中島三郎助（俳号 木麩）の句碑があります。幕末にこの地域でも俳句が盛んであったことを伝える碑で、文人としても活躍した中島三郎助の筆跡を残しています。 **バス停「岩戸」から徒歩5分 満願寺内**

40 佐原城址

聖徳院の奥の台畑という小山に三浦義明の子、佐原義連の城と伝えられている佐原城址の碑が建っています。佐原義連は文治5年（1189）の奥州合戦での戦功により源頼朝から会津（現福島県）に所領を与えられ、その子孫は華名氏を名乗り会津地域で活躍しました。 **バス停「佐原橋」から徒歩7分**



41 へっぴり坂 旧跡

大楠山の声名側登山道の中でもっとも傾斜の急な坂道に、「へっぴり坂」という名前がつけられています。ここを歩くときの光景が目につくような面白い名前です。

●バス停「大楠声名口」から徒歩20分

42 経塚(きょうづか) 旧跡

長井の高台にこんもり木の繁った小高い地があります。南北朝時代の後期にあたる永正13年(1516)、三浦道寸と北条早雲との戦いの際、道寸の家臣であった別覆坊(へっぴりぼう)が住庵を北条方に襲われ、逃げた時に経塚を埋めたともいわれています。

●バス停「ソレイユの丘」から徒歩6分

43 念仏行者 願海(がんかい)の墓 旧跡

東漸寺の本堂裏に願海上人の墓があります。願海上人は江戸時代の念仏行者で、太田和の専養院に寄宿したり、付近の願山に庵を結んだりしながら三浦半島に念仏を広めたといわれています。

●バス停「南武入口」から徒歩3分 東漸寺内

44 武山不動院 持経寺(じきょうじ) 旧跡

頂上からの眺めがすばらしい武山の山頂に武山不動院(持経寺)が建てられています。昔から地域の人々に信仰され、また武山が海上から船の位置を知るための目標になっていたことから、漁師からの信仰も厚いとされています。1月28日の初不動の縁日にぎわいは、横須賀風物百選にも選ばれています。

●バス停「一騎塚」から徒歩30分

45 三浦富士とおたきあげ 旧跡

武山丘陵に連なるこの山は、通称「ふじやま」と呼ばれ、古くから富士信仰と結びついています。毎年7月8日には早朝から山頂でおたきあげがあり、商売繁盛、大漁、無病息災などを願う加持祈禱が行われます。

●バス停「浅間神社」から徒歩15分

46 みかん園 風物

京急津久井浜駅から三浦富士へ向かうハイキングコースをたどると、のどかなみかん園の風景が広がります。津久井浜観光農園では、春はいちご、じゃがいも、夏はメロン、秋にはさつまいも堀りや、みかん狩りが楽しめます(046-849-4506)。

●京急津久井浜駅から徒歩20分

47 津久井次郎の墓 旧跡

東光寺は行基が開基とされる古刹(こさつ)で、寺の裏に津久井一族の墓があり、中央が津久井次郎義行の墓といわれています。津久井次郎は、三浦義明の弟で、この辺りを所領したとされています。

●京急津久井浜駅から徒歩20分

48 万代会館 旧跡

ソニーの会長であった万代順四郎氏が職を辞した後、病気の妻の保養のためにこの地に住みました。後にその住居は横須賀市に寄贈され、現在は万代会館として一般に開放し、お花、お茶、和裁などの文化活動に広く利用されています。

●京急津久井浜駅から徒歩5分

49 長岡半太郎記念館・若山牧水資料館 旧跡

長岡半太郎博士は明治、大正、昭和の物理学の先覚者として功績を残し、文化勲章を受章しました。その後横須賀に移り住み、亡くなるまで使用していた家跡に現在の記念館がつけられました。歌人として名高い若山牧水の資料館も併設されています。

●京急長沢駅から徒歩9分

50 若山牧水歌碑・若山牧水夫婦歌碑 文化財

「漂泊の歌人」といわれた明治・大正の歌人若山牧水は、妻の療養のため東京から横須賀に移り住み、約2年のあいだ北下浦の自然の中での作歌活動にふけりました。長沢橋近くの海岸に面して、若山牧水の歌碑と若山牧水夫婦の歌碑が並んで建てられています。

●京急長沢駅から徒歩9分

51 かるうと山古墳 文化財

バス停を降りて光の丘トンネルに向かうと、トンネル手前に光の丘公園の案内板があり、そこから山道に入ると、頂上付近に「かるうと山古墳」の案内板があります。「かるうと」とは石室(石造りの部屋)のことで、奈良時代の豪族の墳墓と推測され、直刀、つかなど数点が出土しており、平成20年に市指定史跡となりました。

●バス停「光の丘5番」から徒歩12分

この地図は、横須賀市長の承認を得て、同市発行の縮尺2,500分の1の都市計画基本図を使用して調製したものである。(横都第103号)